

茨城県 育成会だより

第 154 号

発行日 令和6年12月10日
 発行 一般社団法人
 茨城県手をつなぐ育成会
 編集 広報委員会
 事務局 〒310-0851 水戸市千波町1918
 セキショウ・ウェルビーイング福祉会館内
 ☎ 029-243-3838
 FAX 029-243-3854
 URL <http://www.ibaikuseikai.com/>
 e-mail iba-ikuseikai@bz03.plala.or.jp



グループホーム ひらそる



グループホーム ふえりす水府



グループホーム ふえりす太田

社会福祉法人 朋友会

理事長 平根 朋幸

朋友会は、平成17年に設立した知的に障がいのある方の支援に特化した社会福祉法人です。知的に障がいのある未就学児童から高齢者までの支援を多機能事業所4カ所、グループホーム3拠点7カ所で展開しています。

一般に歳を重ねると、字が見づらくなったり、小さい音が聞き取りにくくなったり、さらには筋力や認知機能、免疫機能も低下します。

これは知的障がいのある方も同じで、さらに老化が訪れる年齢も早く、進みも速いと言われています。

数年前まで元気に走っていた方が車椅子での生活を余儀なくされたり、大きな口を開けて豪快に食事をしていた方が胃ろう等で栄養を摂るようになることは珍しくありません。19期を迎えた「ひまわり(生活介護/就労継続支援B型)」でも、同様の例があり、

老化の進みが速いことを実際に感じていきます。我々支援員もその進みに合わせ支援方法を変えていかなければなりません。見誤って同じ支援方法が続けると、転倒や誤嚥といった事故につながります。

支援員の介護技術やリハビリ的な日中活動、人生終盤の生活の質を高める余暇活動の重要性が増していきます。

朋友会では「未来を見据えた支援」の体制を整えるために、職員の介護技術向上のための資格取得支援、高齢で知的障がいのある人のための施設展開を積極的に行っております。

連絡先：常陸太田市松平町364-1
 電話：0294-7005033

障害者の親なき後の人生を考える～家族が準備すること～

研修委員 内藤 絵莉子

令和6年(2024)9月25日、セキショウ・ウェルビーイング福祉会館コミュニティホールで、日本福祉大学教授・社会福祉法人睦月会理事長の綿祐二先生の講演会「障害者の親なき後の人生を考える～家族が準備すること～」が開催され、福祉の現状を具体的な事例を交えてお話しいただきました。

ご家族の中で健常者は自分だけという環境で育った綿先生は、「今の人生をもう一度送りたいか」と聞かれればNOと答えるそうです。でも、「今 幸せか」と聞かれればYESと答える。それは今幸せだから。

自分の母は幸せだったかな、と考えたとき、「障害者として」ではなく「母としての人生」を過ごせたから幸せだった、と先生は思うそうです。

「障害者として」ではなく「Aさんとして」「Bさんとして」という生き方をしてほしい、どの人にも自分の人生を作ってほしい、と話してくれました。

また、ライフステージを大きく分けて「誕生・未就学期」「就学期」「青年・壮年期(社会参加)」「高齢期」とし、それぞれのステージごとの福祉サービスや課題、家族の障害受容から親子の共依存、経済的自立への考え方など、実際にあった事例をもとに聞かせてくださいました。

綿先生は「25歳独立論」を提案されています。はじめはそんなに早く手を離して大丈夫なのかな、と思いましたが、お話を聞いて納得しました。

市町村によって心身障害者福祉手当の金額が違うことも知りませんでしたし、かたくなに親子で現住所に住み続けなければいけない理由はないんだな、と自由な気持ちになれました。

そしてグループホームについて。これからのグループホームはその人の困りごとに合わせたカスタマイズ型の終の棲家を作るのがおすすめとのことでした。



研修会会場

「看取りのできるグループホーム」という話から、親なき後の子供の死なせ方を考えるのが最重要事項と聞いて息をのみました。その点についてはまだ答えは定まっていますが、得ることの多い講演でした。

2024年12月には東京・原宿に5階建ての睦月会の福祉ビルがオープンすること。ぜひうかがってみたい、と思いました。



綿 祐二氏講演会

第9回全国手をつなぐ育成会連合会全国大会秋田大会に参加して

かすみがうら市 根目沢 浩幸

10月12日(土)・13日(日)に、第9回全国手をつなぐ育成会連合会全国大会秋田大会がスローガン「共生社会をめざし、将来を見据えた活動を続けよう」を掲げ開催されました。

メイン会場の「あきた芸術劇場ミルハス」は秋田杉がふんだんに使用されているほか、樺細工や川連漆器、大館曲げわっぱなどの伝統工芸品が随所にちりばめられており、秋田らしさにあふれていました。

また、アトラクションで竿灯の演技、懇親会ではなまはげ太鼓、秋田民謡などたくさんのおもてなしをしていただきました。



秋田大会看板



古川 慎治講師

さて、秋田大会では、ライフステージに合わせて、分科会で悩みや情報を共有し、将来に向けて何をすべきかを探る機会にしたいとあり、私は、高齢期の分科会「親も本人も安心して年を重ねる」に参加しました。国立のぞみの園の理事、古川慎治氏は、基調講演の中で、知的障害のある人の意思決定は障害の程度に関わらず「体験」・「経験」が大切。いろんな体験を通じて自分の意思を表出でき、良い経験がどれだけできたかが、豊かな人間形成となり、素敵な笑顔が出る。これをきちんとパーソナルデータとして記録に残すこと。

そして、将来を託す支援者に本人情報として伝えることが、親の役割で、本人がどう生きるのか決めることではなく、どう生きて欲しいかを「伝えること」と提言されていました。

子どもに何を残すかは、親が元気なうち「愛情と思い出を残してあげてください。」と支援者の立場、そして支援者ではできないこととしての意見を述べられました。

親が元気なうちに一緒に考えていきたいと思えます。

最後に、この度の秋田大会で、全育連の会長表彰を受賞できたこと大変光栄に思います。この評価は育成会の会としての協力的な取り組みを強調するものでもあります。

今後も、より良い育成会活動を実現するための共通の目標を提唱し、取り組んでいきます。

この名誉ある評価に改めて感謝いたします。



懇親会 (なまはげ太鼓)

第58回関東甲信越大会新潟大会について

事務局長 村田 裕二

9月28日(土)に「手をつなぐ育成会関東甲信越大会新潟大会」が、大会テーマ「みんなとつながり この地で安心して暮らすために」のもと、本人参加イベントとともに開催されました。会場は新潟テルサという立派な施設でしたが、参加者が少なかったのは残念に思いました。

大会式典に続いて、全育連の又村事務局長から中央情勢報告があり、令和6年度の報酬改定により、入所施設やグループホームのあり方が大きく変わったこと、意思決定支援では本人の意向確認が法定化されたことなどが報告され、益々地域生活支援体制の整備が重要であり、地域育成会も積極的に参画していく必要があると強調されました。



中央情勢報告 (又村氏)



奥平 綾子講師

休憩後には、兵庫県で障害のある子の特性に合った支援ツールを考案し、製作・販売している(株)おめめどうの奥平綾子氏の講演があり、自閉症や発達障害のある人が、「視覚的・具体的・肯定的」に理解しやすい支援ツール「巻物カレンダー」や「コミュメモ」を使用することにより、本人の意思が確認されて日常生活での行動が落ち着き、親の負担軽減も図れるなどの効果が紹介されました。また、この支援ツールを使用している新潟市育成会の会員からは、行動障害のある子と「コミュメモ」を使うようになってからは、それまでの「地獄のような家庭」が、「笑顔で落ち着きのある家庭生活」を送れるようになったとの報告があり、本人の特性に応じた対応が重要だと印象に残りました。

最後に、大会宣言・本人宣言が採択され、新潟大会は終了しました。

令和8年度には、第60回関東甲信越大会(関ブロ茨城大会)が開催されます。当育成会も茨城大会の開催に向けて準備作業を進めてまいりますので、皆さまのさらなるご協力をお願いいたします。



講演会 (奥平氏)

地域交流委員会活動報告

地域交流委員会委員長 中村 正子

地域交流委員会の本年度の活動として、昨年引き続き地域のイベントに参加させて頂き、地元育成会の会員の皆さんと交流しながら啓発活動をしていきたいと思ひます。

まずはじめに、10月12日(土)小美玉市生涯学習センター コスモスで開催された「第16回小美玉市福祉にっこりまつり」に参加し、手をつなぐ育成会のパンフレットを配布しました。福祉にっこりまつりは、「みんなで育て



小美玉市中心身障がい児者父母の会のブース

よう福祉のおみたま！」をスローガンに、福祉関係者やボランティアが一堂に会し、新しい地域福祉を推進していくことを目的とした催しで、事業所やサークルの紹介



育成会メンバー



にっこりまつり会場

コーナー、模擬店、映画上映、福祉講演会、飲食コーナー、キッチンカーも出店し、とても賑わっていました。

また、10月20日(日)は、水戸市千波公園で「第23回ふれあいのひろば」にも昨年に引き

続き参加し、こちらでもパンフレットを配布しました。ふれあいのひろばは、「障害のある人もない人も、ともに集い、文化活動などの『ふれ愛・交流の場』を通じ相互の理解を深め合い『ともに生きる地域社会』づくり」を目指す催しで、水戸市障害者レクリエーション教室の皆さんによるダンスや踊りの発表があり、子どもから大人までお揃いのハッピー・鳴子を手に楽曲に合わせて楽しく踊っている姿がとても素晴らしく、また、茨城国体のイメージソングを歌った磯山純さんの生歌に合わせ「そして未来へ」を元気に踊っていました。各団体では、マッサージ、お菓子つかみ取り、バザー、模擬店、飲食コーナーもあり、千波湖からの風を受けながら楽しく過ごせるイベントでした。そんな中、先日の手をつなぐ育成会研修会に参加された方が、是非、育成会に入会したいと来場されていました。

地域に出向いて地域育成会の会員の皆さんと少しでも交流を増やしていけるよう活動していきたいです。地元には育成会がない地域もあり、その地域をどうフォローしていくかは、これからの課題ではありますが、少しずつ地域に根ざして行けるよう微力

ではあります。委員

会として活動

を続けて

いきたいと

思ひます。



「手をつなぐ育成会」の活動の様子 水戸市障害者レクリエーション教室の踊り 磯山純さんの無料コンサート

育成会長活動日記

第7回



「親なき後」はいつ始まる？

茨城県手をつなぐ育成会 会長 永井 立雄

私事で恐縮ですが、9月末に母親が亡くなりました。享年95歳。3人の子を産み3番目がダウン症の男の子でした。60年前のことです。当時は知的障害者のための福祉制度が現在のように充実していなかった時代ですから、子育てにも相当の苦労があったものと思われます。その障害児（私の弟）も60歳になり今は施設で暮らしています。父親は10年ほど前に他界していますから、弟にとっては両親がいなくなったこれからが正に「親なき後」ということになります。

「親なき後」という意味ではその通りなのですが、実は我が家にとって「親なき後」はずっと前に始まっていたのです。父親は亡くなる10年ほど前に脳梗塞を患い、体が不自由になり最後の数年はほぼ寝たきりの状態でした。意識は清明でしたが、ベッドの上での生活が続きました。ちょうどその頃、母親に認知症の症状が出始めます。両親は介護施設に入所することになりました。弟はその頃すでに施設でお世話になっていましたが、今思うとその頃が我が家の「親なき後」の始まりであったと感じています。

超高齢化社会と言われ、多くの方が90歳から100歳まで生きる時代になりました。「生きている」という一面だけを切り取れば確かにその通りなのですが、障害のある子どもの親にとっては、むしろいつまで元気でいられるのかが重要になってきます。多くの親が気にかけている「親なき後」は、本当に死んでしまうずっと前から始まる可能性があるのです。

さて、私の両親も含め多くの会員の皆さんは、教育も就労も医療も満足に整えられていない時代から障害のあるわが子を育ててきました。多くの差別や無理解、無関心と闘いながら歳を重ね、多少手はかかるが無事に成長したわが子との平穏な毎日。この日常を幸福と感じられている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。しかし、「親なき後」の始まりがすでに身近に迫っているかもしれません。

幸い現在では、以前に比べて福祉制度もそれなりに進化し、突然両親がいなくなっても障害者が路頭に迷うという事態はないでしょう。けれども、障害者にとって突然の生活環境の変化は相当のストレスとなるでしょう。親自身が元気なうちに、できれば早めにお子さんの将来を設計して、自立させることが大切だと思います。

介護の備え、始めてますか？

介護が必要になることは誰にでも起こりえます。

要介護となった
主な原因1位
認知症

2位
脳血管疾患
(脳卒中)

3位
骨折・転倒

出典：厚生労働省 2019年 国民生活基礎調査の概況



パンフレット、
お申し込み方法は
こちらから



子どもに負担をかけたくない！ 在宅介護は負担になるので、
施設入所をせざるを得ない、と思った今、備え始めましょう

親向け [NEW] 「手をつなぐおたすけプラン 介護」

当制度は、一般社団法人全国手をつなぐ育成会連合会の本体事業です

このチラシは概要を説明したものです。
詳しくはパンフレットをご参照ください。

【取扱代理店】
一般社団法人 全国手をつなぐ育成会連合会
TEL：03-5358-9274

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 7-17-6 FAX：03-5358-9275
受付時間：平日の午前10時～午後6時（土・日・祝日・年末年始も除きます。）
【引受保険会社】損害保険ジャパン株式会社

SJ24-08240 (2024/09/27)

令和6年度・令和7年度の県手をつなぐ育成会の各委員会の委員は、以下のとおりです。

特に、令和8年度（令和9年2月頃）に水戸市内で開催する「第60回手をつなぐ育成会関東甲信越大会茨城大会」を計画的かつ円滑に運営するため、新たに「茨城大会実行委員会」を設置しました。実行委員会の委員は、今後必要に応じて参画いただく協力者を募りますので、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

一般社団法人 茨城県手をつなぐ育成会 委員会委員名簿 第60回関プロ茨城大会実行委員会 委員名簿
(令和6年度・7年度)

委員会	氏名	所属	備考
総務	飯村 晴代	つくばみらい市手をつなぐ育成会	委員長
	永井 立雄	日立市手をつなぐ親の会	
	中村 正子	ひたちなか市障害児者育成会	
	嶋田 みち子	石岡市手をつなぐ育成会野ばらの会	
	立川 益信	NPO法人茨城県あすなろの郷手をつなぐ育成会	
	徳永 一成	稲敷市手をつなぐ育成会	
	清水 学	本人活動委員会	
研修	嶋田 みち子	石岡市手をつなぐ育成会野ばらの会	委員長
	吉川 佳代子	潮来市障がい者児親の会	
	飯村 晴代	つくばみらい市手をつなぐ育成会	
	内藤 絵莉子	つくば市手をつなぐ育成会	
	菅谷 久美子	結城市心身障害児（者）父母の会	
	高安 米子	ひたちなか市障害児者育成会	
	堀江 由枝	水戸手をつなぐ育成会	
	櫻井 詩子	土浦市手をつなぐ育成会	
	川崎 喜美江	NPO法人茨城県あすなろの郷手をつなぐ育成会	
花田 三男	神栖啓愛園保護者会		
広報	徳永 一成	稲敷市手をつなぐ育成会	委員長
	杉山 正美	小美玉市心身障がい児者父母の会	
	伏見 千夏	小美玉市心身障がい児者父母の会	
	露久保 真依子	常陸大宮市手をつなぐ育成会	
	田口 美博	水戸手をつなぐ育成会	
	菅谷 久美子	結城市心身障害児（者）父母の会	
権利擁護	立川 益信	NPO法人茨城県あすなろの郷手をつなぐ育成会	委員長
	永井 立雄	日立市手をつなぐ親の会	
	大坪 浩	利根町手をつなぐ育成会	
	中野 敏	北茨城市手をつなぐ育成会	
	関 多恵子	常陸大宮市手をつなぐ育成会	
	根本 順子	水戸手をつなぐ育成会	
	市村 優一	若葉園父母の会	
	黒澤 義明	ひたちなか市障害児者育成会	
地域交流	中村 正子	ひたちなか市障害児者育成会	委員長
	露久保 真依子	常陸大宮市手をつなぐ育成会	
	埴 昌子	笠間市手をつなぐ育成会	
	田口 美博	水戸手をつなぐ育成会	
	根目沢 浩幸	かすみがうら市手をつなぐ育成会	
	大高 滋	古河市心身障害児（者）父母の会	
	伏見 千夏	小美玉市心身障がい児者父母の会	
	矢野 清	NPO法人茨城県あすなろの郷手をつなぐ育成会	
(令和6年10月1日現在)			
※「実行委員会」の委員 ・県育成会の総務委員会の委員を充てます。 ・本人大会を開催するため、本人活動委員会の委員・支援者の協力をいただきます。 ・開催地が水戸市内となるため、地元育成会の会員の協力をいただきます。			
委員会	氏名	所属	備考
本人活動	1 永井 立雄	日立市手をつなぐ親の会	委員長
	2 嶋田 みち子	石岡市手をつなぐ育成会野ばらの会	副委員長
	3 飯村 晴代	つくばみらい市手をつなぐ育成会	副委員長
	4 立川 益信	NPO法人茨城県あすなろの郷手をつなぐ育成会	副委員長
	5 中村 正子	ひたちなか市障害児者育成会	(総務委員)
	6 徳永 一成	稲敷市手をつなぐ育成会	(総務委員)
	7 清水 学	本人活動委員会	(総務委員)
	8 鈴木 胖	北茨城市手をつなぐ育成会	(支援者)
	9 中野 敏	北茨城市手をつなぐ育成会	(支援者)
	10 田口 美博	水戸手をつなぐ育成会	(開催地)
	11 根本 順子	水戸手をつなぐ育成会	(開催地)
	12 尾崎 盾	水戸手をつなぐ育成会	(開催地)
	村田 裕二	茨城県手をつなぐ育成会	事務局
	松本 桂子	茨城県手をつなぐ育成会	事務局
委員会	氏名	所属	備考
本人活動	清水 学	本人活動委員会	委員長
	大竹 正美	本人活動委員会	
	伊藤 広也	本人活動委員会	
	深谷 知史	本人活動委員会	
	佐藤 宗智	本人活動委員会	
	真行寺 浩和	本人活動委員会	
	大坪 浩	利根町手をつなぐ育成会	支援者
	飯村 晴代	つくばみらい市手をつなぐ育成会	支援者
	鈴木 胖	北茨城市手をつなぐ育成会	支援者
	中野 敏	北茨城市手をつなぐ育成会	支援者
	根本 順子	水戸手をつなぐ育成会	支援者
	大島 みのる	桜川市手をつなぐ育成会	支援者

令和6年度主要行事予定表

月	日(曜日)	行事予定
12月	5日(木)	ナイスハートふれあいフェスティバル(～9日) (ザ・ヒロサワ・シティ会館)
	6日(金)	広報委員会(団体会議室)
	7日(土)	ナイスハートふれあいフェスティバル 発表会・模擬店
1月	8日(水)	広報委員会(団体会議室)
	23日(木)	研修委員会(小研修室A)
	31日(金)	全育連第15回権利擁護セミナー (兵庫県尼崎市・オンライン)

月	日(曜日)	行事予定
2月	5日(水)	広報委員会(小研修室B)
	7日(金)	権利擁護センター関係機関連絡会(中研修室)
	(未定)	権利擁護委員会・講習会
	13日(木)	広報委員会(団体会議室)
	14日(金)	第61回手をつなぐ育成会茨城大会(ホテルレイクビュー水戸)
	(中旬)	県教育研究会特別支援教育研究部郡市部長会(教育プラザ)
	19日(水)	広報委員会(団体会議室)
3月	20日(木)	茨城県社会福祉大会(ザ・ヒロサワ・シティ会館)
	26日(水)	第4回総務委員会(小研修室A)
	4日(火)	広報委員会(団体会議室)
	(上旬)	関プロ連絡協議会代表者会議(オンライン)
	(中旬)	全国育成会フォーラム・行政説明会
	(中旬)	全育連・全国育成会代表者・事務局長会議
	17日(月)	第5回理事会(中研修室)



島原手延べそうめん類(夏期)の販売状況報告

昨年度から県育成会が実施している「めん類販売事業」について、会員等の皆さまにご協力をいただき、誠にありがとうございました。

夏期めん類販売事業につきましては、15団体の皆さま(県肢連に加入している育成会を除く)にご協力いただき、表のとおりの上等となり、還付金等は県育成会及び地域育成会の活動資金に充当させていただきました。

今後とも、夏期及び冬期のめん類販売事業に、皆さまのご協力をお願いいたします。



○令和6年夏期めん類販売事業実施状況(合計15団体)

売上金額	商品代金支払額	地域育成会への還付金額	県育成会の収益額
800,200円 (合計258個)	558,090円	105,215円 (送料を含む)	136,895円

(注)「送料」は直送又は県育成会から地域育成会への配送費です。

編集後記

結城市心身障害児(者)父母の会の菅谷久美子です。4月より広報委員会に加わりました。よろしくお願ひします。和太鼓が好きな長男と一緒に市内の和太鼓グループに入り活動しています。秋はイベントが多くあちこちからお声がかかり土日は毎週のようにどこかに出かけ太鼓を叩いています。市内での活動がほとんどですが、どこかで見かけたらお声かけ頂ければと思います。4年前から携わっている研修委員会との兼務となります。どちらの委員会も精一杯頑張らせて頂きます。

菅谷 久美子